



## 日本加速器学会設立の経緯

神谷 幸秀

Yukihide KAMIYA

この日本加速器学会を設立しようという話は、そもそも二、三十年前からあり、加速器同好会の発足時にもあり、またいろいろな機会にも学会設立の動きがあったということを聞いています。しかし、この記事では、私自身が関わった2年ほど前からの最近の学会設立の活動と経緯について、簡単に報告することとします。この最近の学会設立の活動は、加速器同好会及び加速器科学研究発表会での検討に端を発しますが、その後、リニアック技術研究会、ビーム物理研究会など、他の加速器関連の研究会やグループでも、学会設立について活発な議論が行われました。

### 加速器同好会及び加速器科学研究発表会での動き

2001年10月28日の第13回加速器科学研究発表会・現地世話人会及び翌日の加速器同好会総会において、(今後とも、研究活動のさらなる発展を目指し、世話人会としての意見を集約するため)「加速器同好会及び加速器科学研究発表会のあり方に関するWG」を立ち上げることになった。このWGのメンバーは、荒川和夫、安東愛之輔、井上信、上坂充、浦川順治、春日俊夫、神谷幸秀、木村嘉孝、熊谷教孝、佐藤健次、高田耕治、浜広幸、武藤建一、森義治、矢野安重の15名であり、2回の会合がもたれた。第1回のWG(2002年8月1日、KEK)で、「同好会を学会として発展させ、本格的に活動できるようにするのも一つの「あり方」であろう」ということになり、学会を設立するための条件等を調査するとともに、今後、加速器関連で大きな研究会である「リニアック技術研究会」にも学会設立の働きかけを行っていくこととなった。第2回のWG(2002年10月30日、KEK)では、その後の調査等に基づいて議論した結果、各研究会や大学、企業等の研究者・技術者からなる比較的少人数

の「設立準備委員会」的なものを立ち上げ、実務的な準備を進めることとなった。このWGに引き続き開かれた、第14回加速器科学研究発表会・第1回世話人会で、このWGの結論が了承され、他の研究会にも広く呼びかけを行うとともに、学会設立の方向で動き始めることになった。

### その後の経緯

学会設立事前打ち合わせ(2002年11月29日、日大(理工学部船橋校舎))

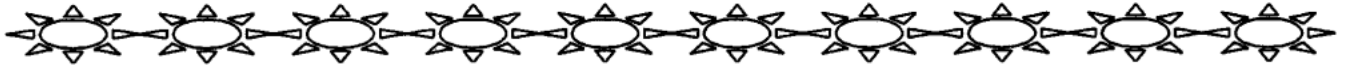
学会設立の準備をスムーズに行うために、加速器関連の研究会の中でも大きな研究会であるリニアック技術研究会関係者にまず呼びかけることとし、このための非公式な事前打ち合わせを行った。出席者は、佐藤勇、横溝英明、高田耕治、神谷幸秀であり、この打ち合わせで、各研究会(リニアック技術研究会、加速器電源研究会、ビーム物理研究会、FEL研究会、サイクロトロン研究会、原子力学会、タンデム研究会等)及び企業へ呼びかけること、学会設立WGの設置、学会設立に向けてのおよそのスケジュール(2003年3月:第1回学会設立準備委員会、2003年10月:設立発起人総会、2004年4月:学会設立総会)等を決めた。

その後は、日本加速器学会(仮称)設立準備委員会の下で、学会設立に向けての準備がすべて進められた。なお、この設立準備委員会のメンバーは、以下の通りである(ただし、氏名の重複がある)。

〈リニアック技術研究会関係〉

磯山 悟朗	河合 正之	山崎 鉄夫
榎本 収志	新竹 積	横溝 英明
富増多喜夫	堀 利匡	三角 智久
服部 俊幸	上坂 充	米澤 宏
浜 広幸	中西 彊	峰原 英介
佐藤 勇	榎戸 武揚	壁谷善三郎





上富 勇 加瀬 昌之 鷺尾 方一  
 花木 博文 野田 章 田川 精一  
 山田 聰

〈加速器科学研究発表会世話人会関係〉

安東愛之輔 井上 信 上坂 充  
 榎戸 武揚 小山田正幸 木村 嘉孝  
 佐藤 勇 佐藤 健次 篠塚 勉  
 鈴木 康夫 田川 精一 野田 章  
 高田 耕治 服部 俊幸 古野 興平  
 水本 元治 森田 健治 森 義治  
 矢野 安重 山田 聰 山田 廣成  
 山根 功 富增多喜夫 熊谷 教孝  
 三角 智久 春日 俊夫 堀 利匡  
 浜 広幸 荒川 和夫 加藤 政博  
 片山 武司 神谷 幸秀 相良 建至  
 中村 正信

〈原子力学会関係〉

柴 武二 野田 耕司 馬場 護  
 的場 優 仲伏 廣光 川瀬 洋一  
 石橋 健二 水本 元治 森 義治  
 上坂 充 今西 信嗣 鬼柳 善明  
 峰原 英介 田川 精一 伊藤 秋男  
 柴田 徳思

〈他の研究会等関係〉

西堂 雅博 吉田 忠 峰原 英介  
 柴田 裕実 中村 俊夫 山崎 良成  
 平田 光司 小方 厚 後藤 彰  
 杉本 昌義 竹内 末広 岩本 英司  
 島 邦博 笹 公和 木原 元央  
 高田 耕治 絵面 栄二 武藤 建一  
 浦川 順治 菊谷 英司 高崎 栄一  
 黒川 眞一 榎本 收志 栗木 雅夫  
 佐藤 皓 芳賀 開一 李 成洙  
 神谷 幸秀

第1回学会設立準備委員会（2003年3月13日，  
 学術総合センター）

委員会への出席者は17名で，この準備委員会のメンバーの確認，設立WG（趣意書，会則・組織，

事業（行事）の設置，定款・細則・委員会規定（案）の提示，学会設立に向けてのスケジュール等の検討が行われた．準備委員会及び学会の事務は（有）ワーズに委託することとなった．また，学会および年会のあり方，設立の意義等について様々な意見交換が行われた．

第2回学会設立準備委員会（平成15年5月23日，  
 八重洲ダイビル）

設立趣意書の原案（2種類）及び定款・細則案，組織案が提示され，発起人総会及び懇親会の日時と会場の決定が行われた．また，発起人候補者リストの作成，各種学会誌への掲載依頼，今後の作業項目とスケジュール，会長・評議員候補者選挙，賛助会員の呼びかけ，会員登録，年会費等について協議された．その他，編集および行事（とくに年会のあり方）等の活動方針について議論が行われた．

さらに，学会の存在意義は，各研究会および各分野の垣根を越えた横断的な場であることにあるので，当面は各研究会の独自性を尊重しつつ，学会の事業として年会・分科会（プレナリーセッション，パラレルセッション及び各種研究会との合同形式など）を開催し，また必要に応じて各種の研究会も開催する方向で今後も議論していくことが確認された．

第3回学会設立準備委員会（2003年7月25日，  
 八重洲ダイビル）

趣意書・会則（改訂版）の承認（実際にはその後も改訂が行われた），発起人総会の会場・日程及び配布資料の確認，発起人および会員の登録手順の了承，発起人候補者リスト及び賛助会員勧誘用企業リストの作成状況や学会設立の広報に関する報告が行われ，今後の作業スケジュールが確認された．また，委員会の開催は，この回をもって最後とし，発起人総会後に選出される会長候補者を中心に，学会発足までの経過措置として評議員候補者会および幹事会等を立ち上げ，具体的な準備作業は幹事会が引き継ぐことが了承された．





学会設立発起人総会（2003年10月22日，学術総合センター・一橋記念講堂）<sup>1)</sup>

百名ほどの発起人の参加を得て開催され，設立に至る経緯，趣意書，定款・細則，組織，事業計画，今後のスケジュール等について報告が行われた．質疑応答の後，総会一致で，2004年4月の学会設立に向けて活動していくことが承認された．また，総会后，場所を隣の如水会館に移して，懇親会が行われた．

第14回加速器科学研究発表会（現地）世話人会及び加速器同好会総会（2003年11月10日及び11月12日，研究交流センター及びつくば国際会議場）

加速器同好会を解散し，加速器科学研究発表会をこの回を最後とすることが了承された（ただし，正式の解散時期は，2004年3月31日とすることとなった）．また，同好会及び加速器科学研究発表会の資金を全額，学会に寄付することも合わせて承認された．

会長・評議員候補者推薦開票（2003年11月22日，八重洲ダイビル）

発起人（501名）に推薦を依頼した会長・評議員候補者についての開票が行われ，その結果，有効推薦数は170通で，118名の評議員候補者が推薦された．

会長・評議員候補者選挙開票（2003年12月21日，八重洲ダイビル）

発起人（501名）に投票を依頼した会長・評議員候補者選挙の開票が行われた．その結果，有効投票数が会長候補者については，239票，評議員候補者については240票であり，会長候補者1名，評議員候補者30名が選出された．

第1回幹事会（2004年1月30日，八重洲ダイビル）

庶務，編集，行事，会計各幹事の設立までの活動方針，第1回評議員候補者会議及び設立総会の準備等，学会設立に向けた具体的な検討が行われた．

その後直ちに，編集委員会が学会誌編集に向け精力的に活動を開始した．

学会の年会準備打ち合わせ（2004年2月4日，日大船橋校舎）

学会の年会を8月にリニアック技術研究会と共催で開くことを協議するため，リニアック技術研究会実行委員会との打ち合わせを行った．年会開催日時，場所，共催のスタイル，実行委員長及び実行委員会構成，組織委員会，講演・懇親会，企業展示，サーキュラー，プロシーディング，参加費等について協議した．その後は，実行委員会を中心に学会の年会・第29回リニアック技術発表会の共催準備が行われている．

第1回評議員候補者会議（2004年2月14日，八重洲ダイビル）

24名の出席を得て開催され，設立準備活動の経緯，会長・評議員候補者選挙，趣意書，定款・細則，学会組織，第1回年会・総会，学会誌編集方針，予算案，会員勧誘活動，設立総会及び記念講演会，学会賞，名誉会員推薦等について審議が行われた．

設立総会及び設立記念講演会（2004年4月17日，学術総合センター・一橋記念講堂）<sup>2)</sup>

加速器学会の正式な発足日は2004年4月1日であるが，その約半月後に設立総会と記念講演会が出席者105名と199名からの委任状を得て開催された．総会の議事は，議長選出，学会設立に至る経緯，設立趣意書・定款・細則，2004年度学会組織，2004年度事業計画，学会誌編集方針，行事活動方針，2004年度予算等であり，満場一致で承認された．引き続き，記念講演会が開催され，「高エネルギー加速器の展望」（横谷馨 [KEK]），「レーザーと加速器」（田島俊樹 [原研・関西研]），「加速器医学利用の展望」（山田聰 [放医研]），「放射光とマイクロテクノロジー」（服部正 [兵庫県立大]），「産業





界にとって加速器ビジネスとは」(尾崎典彦 [技術経済研]) の5つの講演が行われた。その後、如水会館で、懇親会がもたれ、参加者の親睦を深めた。

以上、日本加速器学会の設立に至るまでの経緯をご紹介しましたが、発起人総会、学会設立総会については、日本加速器学会のホームページを、また、2003年10月以前の設立準備委員会等の活動については、参考文献3をご参照下さい。

#### 参考文献

- 1) 設立発起人総会：  
<http://www.kasokuki.com/hokkinin/index.html>
- 2) 学会設立総会：  
<http://www.kasokuki.com/esokai/index.html>
- 3) 神谷幸秀, 「日本加速器学会(仮称)の設立について」, 加速器同好会通信 (JARA News), 第9号, pp28-35

---

\* 日本加速器学会庶務幹事  
(高エネルギー加速器研究機構)  
yukihide.kamiya@kek.jp



設立総会懇親会風景

